

## 医療機関 2025 プラン（その他の医療機関）目次

	病院名	頁
1	防府リハビリテーション病院	P1
2	山口リハビリテーション病院	P5
3	山口若宮病院	P9
4	医療法人神徳会 三田尻病院	P13
5	医療法人社団向陽会 阿知須同仁病院	P19
6	阿知須共立病院	P23
7	一般財団法人防府消化器病センター 防府胃腸病院	P27
8	桑陽病院	P31
9	山口博愛病院	P35
10	医療法人康淳会 緑町三祐病院	P41
11	松本外科病院	P45
12	山口病院	P49
13	医療法人社団水生会 柴田病院	P53
14	佐々木外科病院	P57
15	林病院	P61
16	医療法人丘病院	P65



(別添)

# 防府リハビリテーション病院

## 医療機関2025プラン

平成30年10月策定

### 【基本情報】

医療機関名	医療法人和同会 防府リハビリテーション病院
開設主体	医療法人和同会
所在地	防府市大字台道 1634-1
許可病床数	412 床
(病床の種別)	医療療養 317 床 介護療養 50 床 回復期 45 床
(病床機能別)	慢性期 367 床 回復期 45 床
稼働病床数	401 床
(病床の種別)	医療病床 306 床 介護療養 50 回復期 45 床
(病床機能別)	慢性期 356 床 回復期 45 床
診療科目	内科 循環器内科 呼吸器内科 放射線科 整形外科 リハビリテーション科 神経内科 眼科 歯科
職員数	324名
・ 医師	10名
・ 看護職員	253名
・ 専門職	49名
・ 事務職員	12名

## 【1. 現状と課題】

### ① 自施設の現状

平均在院日数296.5 病床稼働率95%

特徴 医療療養・回復期化中心

### ② 自施設の課題

地域の高度急性期・急性期の後方支援病院として医療療養・回復期機能を中心に地域貢献していきたい。

慢性期機能・回復期機能を中心に在宅復帰を目指す患者様のために専門医療分野を含め対応していきたい。

## 【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

### ① 地域において今後担うべき役割

医療療養・回復期を中心とした医療の提供体制の維持。

専門医療を提供し、地域医療に貢献する。

### ② 今後持つべき病床機能

医療療養病床・回復期を中心とした機能提供となるが、今後回復機能をさらに強化していきたい。

### ③ その他見直すべき点

今後の病棟編成を検討する中で、介護医療院を含めた検討となる。



【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	45		95
慢性期	367		217
休棟等			
(合計)	412		412
介護保険施設へ移行予定			100
うち、介護医療院			100

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--



# 山口リハビリテーション病院 医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

## 【基本情報】

医療機関名	山口リハビリテーション病院
開設主体	医療法人 和同会
所在地	山口市黒川3380番地
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	180床 療養 180床 回復期 124床 慢性期 56床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	180床 療養 180床 回復期 124床 慢性期 56床
診療科目	内科、神経内科、整形外科、リハビリテーション科、小児科、循環器科、放射線科、胃腸科、歯科
職員数	306.3人(常勤換算)
・ 医師	9.1人
・ 看護職員	86.1人
・ 専門職(リハ他)	109.6人
・ 事務、その他	101.5人

## 【1. 現状と課題】

### ① 自施設の現状

回復期：回復期リハビリテーション入院料 2、体制強化加算 1 (34床)

回復期リハビリテーション入院料 3、 (90床)

回復期平均在院日数 87日 病床稼働率 81%

慢性期：療養病棟入院基本料 2、夜間看護加算 (56床)

療養病棟平均在院期間 172日 病床稼働率 88%

### ② 自施設の課題

- ・回復期医療の精度を上げ、地域包括ケア病棟との違いを明確にする。
- ・療養病棟については、さらに医療必要度の高い患者の受け入れを図り、地域の長期療養を必要される方を受け入れる体制づくり。

## 【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

### ① 地域において今後担うべき役割

- ・地域で不足気味の回復期医療の一翼を担う医療機関として、回復期医療提供体制を維持していく。
- ・長期の療養が必要な患者を受け入れる医療機関として、療養医療提供体制を維持していく。

### ② 今後持つべき病床機能

### ③ その他見直すべき点

- ・回復期機能を強化し、地域の急性期医療機関との連携を強化し、シームレスな連携を作り、在宅復帰率やアウトカム評価を上げていけるよう検討。
- ・高齢化のますますの進行並びに急性期病院平均入院期間短縮化等により、当院の回復期リハビリテーション病棟入院患者（特に脳血管疾患患者、大腿骨頸部骨折患者）の平均年齢もさらに高くなっており、合併症もまた多発化・重症化している。今後さらに、急性期後できるだけ早期に患者を受け入れ、高度な医療と充実したリハビリテーションを継続していく体制を検討。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	124		124
慢性期	56		56
休棟等			
(合計)	180		180
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--



# 山口若宮病院

## 医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

### 【基本情報】

医療機関名	医療法人社団若宮会 山口若宮病院
開設主体	医療法人社団若宮会
所在地	山口市下小鯖 1522
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	173床 療養病床 173床 慢性期 173床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	173床 療養病床 173床 慢性期 173床
診療科目	内科 胃腸科 循環器科 リハビリテーション科
職員数	75名
・ 医師	4名
・ 看護職員	44名
・ 専門職	15名
・ 事務職員	12名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 : 療養病棟入院基本料1 (20 : 1)

30年3月に介護療養病床(56床)の指定辞退をして、許可病床を229床から173床に減少。25 : 1の入院基本料2 (113床) を4月より基本料1に移行。

7月に併設の転換型老健花和の里(96床)を介護医療院へ移行。

② 自施設の課題

在宅施設がないので、入院患者さんが主に急性期からとなり、毎月の入院患者数の増減が大きい。

入院の受入先の確保が課題となる。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

急性期、地域包括ケア病棟、回復期リハの受け皿となる。

② 今後持つべき病床機能

現在のまま、地域における慢性期として継続する。

③ その他見直すべき点



【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	173		173
休棟等			
(合計)	173		173
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2020	介護医療院の増床	急性期等からの受け入れ拡大 看護要員の補充

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--



# 医療法人 神徳会 三田尻病院

## 医療機関2025プラン

平成30年10月 策定

### 【基本情報】

医療機関名	医療法人 神徳会 三田尻病院
開設主体	医療法人 神徳会
所在地	山口県防府市お茶屋町3番27号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	144床 一般病床 144床 急性期 94床、回復期 50床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	144床 一般病床 144床 急性期 94床、回復期 50床
診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、糖尿病内科、腎臓内科、血管内科、神経内科、人工透析内科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、アレルギー科、小児科、皮膚科、泌尿器科、眼科、放射線科、歯科、歯科口腔外科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	270名 ・ 62名 (常勤13名) ・ 130名 ・ 53名 ・ 25名

## 【1. 現状と課題】

### ① 自施設の現状

#### 【基本理念】

「病院は地域 そしてスタッフのもの」

#### 【目標】

「地域に求められる良質かつ適切な医療を提供できる病院」

「快適で活力ある働きがいのある病院」

#### 【5年間の指針（平成27年度策定）】

三田尻病院は「地域包括ケアシステム」の中心施設となるべく

地域内の急性期の一部、並びに亜急性期の患者さんに特化した医療を提供する。

#### 【平成30年度事業運営における具体的取組】

（1）地域において急性期・回復期医療を担う病院としての役割

- ①在宅復帰支援強化（地域連携部門強化、サブリハビリセンター増設）
- ②地域医療連携の推進（県央デルタネット事業参加）
- ③疾病の早期発見と早期予防（健診センター疾病予防事業強化）
- ④災害拠点病院機能強化（災害対応訓練実施）

（2）医療の質向上に対する取り組み

- ①チーム医療の推進（口腔ケア等在宅医療への取り組み）
- ②病床機能の効率的運用（病棟稼働率向上への取り組み）
- ③医師、看護師の負担軽減（診療支援室・入退院支援センター新設）
- ④患者満足度向上への取り組み（病室の計画的な整備）

（3）健全経営の確保

- ①医療スタッフの確保と人材育成（教育計画の策定、共有）
- ②医療現場と管理部門の情報共有と相互連携強化（部門目標の策定、共有）
- ③医療費用の適正化（人件費率と材料費の適正管理）
- ④医療機器、設備の計画的な更新・整備（予算計画の策定、共有）

#### 【届出入院基本料】

急性期一般入院基本料6（94床）、地域包括ケア病棟入院基本料2（50床）

【診療実績（平成29年9月1日 - 平成30年8月31日）】

- ・ 1日平均入院患者数 123.9人
- ・ 平均在院日数 19.2日
- ・ 一般病床利用率 87.0%
- ・ 1日平均外来患者数 272.0人
- ・ 1日平均救急患者数 3.3人（独歩）
- ・ 1日平均救急患者数 0.5人（救急車）
- ・ 手術件数 390件
- ・ 紹介率 20.2%
- ・ 逆紹介率 18.6%

【特記事項】

- ・ 災害拠点病院
- ・ 2次救急指定医療機関

【地域特性】

山口・防府医療圏において高度急性期病床を擁する医療機関は3ありそれぞれの防府市中心市街地からの移動時間は以下の通り。

山口県立総合医療センター 15分

山口赤十字病院 40分

済生会山口総合病院 40分

また山口市中心市街地からの移動時間はそれぞれ以下の通り。

山口県立総合医療センター 30分

山口赤十字病院 10分

済生会山口総合病院 10分

山口・防府医療圏において人口の大幅な減少は予測されておらず高度急性期機能においてはその維持が求められる。上記の通り防府地域の高度急性期医療は山口県立総合医療センターに依るところ大であり、その維持を欠かすことはできない。

また防府地域において急性期医療を担う医療機関は前述の山口県立総合医療センターを含め7病院、551床。必要病床数から割り出せばそのうち164床が不要と判断される。

一方、回復期機能を担う病床については355床が不足していると推計され、高度急性期・急性期病床からの移行が行われる可能性がある。

## ② 自施設の課題

山口・防府医療圏の休床を除く許可病床は3,833床。2025年に必要とされる病床は3,008床。当院が届出している「高度急性期・急性期・回復期」の区分においては必要病床数との差が約13.7%ある。必要病床数との差を全医療機関で按分するとするならば当院においては144床中の約20床を削減するということになる。

しかしながら「地域特性」の項目にも記載した通り、山口・防府医療圏、とりわけ防府地域の医療提供に際しては高度急性期機能を担う山口県立総合医療センターの存在は欠くべからざるものであり、その高度急性期機能の維持を最優先に考えるべきである。急性期、回復期両機能を担う当院としては急性期機能、回復期機能共にその充実を計る必要がある。その際、課題となる事項は以下の3点。

- ①急性期・回復期（主としてリハビリテーション）における多様な診療ニーズに対応する一部医師への業務偏重の是正。
- ②災害拠点病院として必要な機能の補完、維持に対応する一部医師への業務偏重の是正。
- ③上記2点で必要とされる機能を十分に果たすため現在以上の人数が必要となる看護師の確保。

## 【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

### ① 地域において今後担うべき役割

- 急性期・回復期における多様な診療ニーズへのさらなる対応の充実。
- 災害拠点病院として必要な機能の補完、維持。

### ② 今後持つべき病床機能

- 急性期機能（94床）と回復期機能（50床）は維持するが地域内の他院動向に合わせた対応を行う必要がある。

### ③ その他見直すべき点

先日の山口・防府医療圏地域医療構想調整会議にて提示された「平成30年度からの病床機能報告における医療機能の選択について」に示された保険点数における医療機能分類に基づいた自院の患者層分析。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	94		94
回復期	50		50
慢性期			
休棟等			
(合計)	144		144
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紹介率、逆紹介率の向上。(一般病院全国平均 紹介率49.8% 逆紹介率23.3%)</li> <li>・ 人件費率の適正化(一般病院全国平均 53.3%)</li> </ul>
---

【4. その他】(自由記載)

--





# 阿知須同仁病院

## 医療機関2025プラン

平成30年10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人社団向陽会 阿知須同仁病院
開設主体	医療法人社団向陽会
所在地	山口市阿知須4241番地4
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	138床 一般病床30床、療養病床48床、介護療養病床60床 急性期30床、回復期48床、慢性期60床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	138床 一般病床30床、療養病床48床、介護療養病床60床 急性期30床、回復期48床、慢性期60床
診療科目	内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科 外科、脳神経外科、整形外科、放射線科 麻酔科、リハビリテーション科
職員数	203名
・ 医師	5名
・ 看護職員	118名
・ 専門職	45名
・ 事務職員	35名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 13対1入院基本料、医療療養型、介護療養型

一般病棟 平均在院日数21日、病床稼働率98%以上

② 自施設の課題

療養病床での回復期機能の期的制約

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

地域急性期の一線病院として役割を果たす

基幹病院との前方、後方支援と周辺開業医との連携

在宅及び関連施設との密接な入退院支援

② 今後持つべき病床機能

さらなる回復期及び療養病床につなぐ連携体制

さらなる在宅支援事業の拡大

今後の診療報酬改定や政策等に伴い、適宜見直しを検討する

③ その他見直すべき点

入院療養が中心であるところの充実を図る

人数確保や働きやすい環境整備を行っていく

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	30		30
回復期	48		48
慢性期	60		0
休棟等	0		0
(合計)	138		78
介護保険施設へ移行予定	—		60
うち、介護医療院	—		60

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2018 2019～	介護療養病床を介護医療院に転換	在宅療養の充実を図る 自設備及び関連施設における「地域医療介護総合確保基金」の活用

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--



# 阿知須共立病院

## 医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

### 【基本情報】

医療機関名	医療法人協愛会 阿知須共立病院
開設主体	医療法人協愛会
所在地	山口市阿知須4841-1
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	135床 一般病床 45床、療養病床 90床 急性期 45床、回復期90床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	135床 一般病床 45床、療養病床 90床 急性期 45床、回復期90床
診療科目	内科、消化器内科、循環器内科、内視鏡内科、肝臓内科、腎臓内科 糖尿病内科、内分泌内科、呼吸器内科、外科、消化器外科、乳腺外科 呼吸器外科、血管外科、脳神経外科、整形外科、放射線科、 リハビリテーション科
職員数(9/1現在)	251.6人(9/1現在、病院のみ、常勤換算)
・ 医師	12.6人
・ 看護職員	96.4人
・ 専門職	103.3人(医療技術員、介護職員、ケアマネ、MSW、保育、調理員含む。)
・ 事務職員	39.3人

## 【1. 現状と課題】

### ① 自施設の現状 \* 数値は平成29年度実績

<急性期>急性期一般入院料5、平均在院日数14.7日、病床稼働率84.6%

<回復期>

■地域包括ケア病棟：地域包括ケア病棟入院料1（平成30年8月1日付取得）、平均在院日数39.1日  
病床稼働率89.9%、在宅復帰率82%（本年3～8月平均、基準は6ヶ月平均70%以上）、自宅等から入棟した患者割合54%（本年6～8月平均、基準は3ヶ月平均10%以上）

■医療療養病棟：療養病棟入院基本料1、在宅復帰機能強化加算取得、平均在院日数88.8日  
病床稼働率94.5%、医療区分割合89%（本年6～8月平均、基準は3ヶ月平均80%以上）、在宅復帰率75%（本年3～8月平均、基準は6ヶ月平均50%以上）

●救急車搬送件数381件、手術件数310件（内全麻205件）、内視鏡件数4,071件、1日平均外来患者数229人、1ヵ月平均入院患者数102.4人（同退院患者数102.6人）、1ヵ月平均透析患者数45.9人  
訪問診療1ヵ月平均患者数33.2人（在宅療養支援病院）、訪問看護実施（訪問看護師数7人）  
訪問リハビリ実施、通所リハビリ実施（定員35名）

●病院機能評価認定（平成29年1月4回目の認定、3rdG:Ver.1.1）、人間ドック・健診施設機能評価認定（平成30年3月2回目の認定、Ver.3.0.）、電子カルテシステム（平成16年導入、平成30年10月2回目の更新）、施設認定（日本外科学会外科専門医制度関連施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設、日本腎臓学会認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設Ⅱ、日本認知症学会認定教育施設、日本透析医学会認定教育関連施設、日本脳ドック学会認定施設、人間ドック健診専門医研修施設）、肝疾患専門医療機関、救急告示病院 等

●県中央ネットワーク提供病院

### ② 自施設の課題

- 病棟編成については環境変化に応じ数度の再編を実施。現状で一定の完成を見たと考えている。
- 医師体制拡充及び職員教育を徹底し、医療安全はもとより医療提供機能の質的レベルアップを図る。
- 在宅医療強化（訪問診療体制強化、近隣医療機関・施設等との連携強化等）&救急医療体制強化を図る。なお在宅医療については、平成25年、県から在宅医療提供体制構築事業を受託。

## 【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

### ① 地域において今後担うべき役割

- 質の高いケアミックス病院として、地域医療機関や施設等との連携を強化し、医療・介護・福祉サービスを地域の皆様にシームレスに提供して行く。
- 地域の皆様の健康長寿を図ると共に、山口テクノパークをはじめ近隣地区に相次いで進出する企業からの要請に応じ、予防医療の強化を図る。
- 当院の理念である「地域の安心支援拠点」「健康長寿」「四者満足」を目指す。

### ② 今後持つべき病床機能

- 病棟機能は現時点では一定の完成形と考えている。

③ その他見直すべき点

- 本年度事業計画の重点課題である、魅力ある職場作りに向けた働き方改革の実行

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	45		45
回復期	90		90
慢性期			
休棟等			
(合計)	135		135
介護保険施設へ移行予定	—		—
うち、介護医療院	—		—

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

■中期経営計画「NEXT50-革新-」(2016～2018年の3ヵ年計画)で以下の数値目標設定。なお次年度以降の数値目標は本年度策定の次期中期経営計画で設定

<経営目標>

収益及び経常利益目標設定、人件費率(役員報酬含む)60%未満

<医療提供に係る目標>

病床稼働率(一般病棟85%、地域包括ケア病棟92%、医療療養病棟95%、全体90%)

看護必要度(一般病棟21%、地域包括ケア病棟10%)、医療区分(医療療養病棟80%)

在宅復帰率(医療療養病棟50%、地域包括ケア病棟70%)、1日外来患者数220人以上

【4. その他】(自由記載)

■病床機能選択に際し、本年6月診療分レセプトにより保険点数による医療機能分類シミュレーションを実施、結果は以下の通り

急性期(5階一般病棟45床)1日平均点数2,259点、回復期(4階地域包括ケア病棟45床)1日平均点数3,013点、回復期(3階医療療養病棟45床・在宅復帰機能強化加算取得)830点

■平成25年度、県から在宅医療提供体制構築事業を受託。近隣17診療所と連携し「きらら在宅医療協議会」を立ち上げ、在宅医療提供体制拡充に向け継続した取り組みを行った。本年度からは在宅医療提供体制充実支援事業として、医師会と連携して活動を継続することとなった。

■医師、看護師をはじめとした専門職スタッフの負担軽減を目的に、働き方改革の具体策を実行し、急性期医療対応、救急医療対応の充実を推進している。主要な働き方改革の具体策は以下の通り。

\* 医師・病棟・外来クラーク等各種クラークの導入、病棟ナースエード・コンシェルジュの導入、第5土曜日の休業化や公休日数の増加等休日の増加、リフレッシュ休暇制度の導入、外来受付時間の短縮化、職員何でも相談窓口の開設・相談員の配置、タブレット端末の配備、健康経営宣言等

なお本年度「魅力ある職場づくりプロジェクトチーム」を設置し、更なる改善に取り組んでいる。

\* 働き方改革取り組みに対する各種認定等

「子育てサポート企業(くるみん)」認定(3回認定)、日本創生のための将来世代応援知事同盟から「将来世代応援企業賞」受賞、「やまぐち働きやすい介護職場宣言事業所」認定、「やまぐち女性の活躍推進事業者宣言制度」登録認定、「誰もが活躍できるやまぐちの企業」認定等

■患者様に安全で美味しい食事を楽しんで頂くため、ソフト食メニュー開発に取組み、第4回嚥下食メニューコンテストで「HAPPY NEW雑煮」が最優秀グランプリを獲得した。なお本コンテストでは毎年のように入賞、レシピを公開すると共にソフト食の普及のため全国で講演を行っている。



一般財団法人 防府消化器病センター 防府胃腸病院

医療機関2025プラン

平成30年 4月 策定

【基本情報】

医療機関名	一般財団法人 防府消化器病センター 防府胃腸病院
開設主体	一般財団法人 防府消化器病センター
所在地	山口県防府市駅南町14番33号
許可病床数	120床
（病床の種別）	一般病床 120床
（病床機能別）	急性期 120床
稼働病床数	120床
（病床の種別）	一般病床 120床
（病床機能別）	急性期 120床
診療科目	消化器外科、消化器内科、内視鏡外科、内視鏡内科、疼痛緩和内科、胃腸外科、胃腸内科、食道内科、外科、内科、放射線科、リハビリテーション科
職員数	165名
・ 医師	9名
・ 看護職員	103名
・ 専門職	23名
・ 事務職員	30名

## 【1. 現状と課題】

### ① 自施設の現状

届出入院基本料 一般病棟基本料 急性期一般入院料 1 120床

平均在院日数11.3日 病床稼働率65%

### ② 自施設の課題

今年1月より検証を進め、地域において当院に必要とされる病床機能の再編を検討した結果、直近1年間の患者解析から、急性期に加えて、ポストアキュートならびにサブアキュートの両機能としての地域包括ケア病床が必要であることが明らかとなり再編を要すると考えた。転換に必要とされる機能の中で、リハビリテーション科がなかったため、十分に経験のあるスタッフの入職を待ってリハビリテーション科を新設した。現時点において課題として挙げられるのは今後のリハビリテーション科の拡充と、在宅機能の拡充ならびに2次救急への十分な受入態勢等急性期機能の充実を目的とした医師・看護師・薬剤師等の確保である。

## 【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

### ① 地域において今後担うべき役割

当院は現在消化器外科領域の手術も年間300件程度実施しており、5日ごとの輪番にて2次救急の受入も実施している。また消化器領域に特化したがん治療も積極的に行なっており、消化器内科と消化器外科の連携治療を推進し、内視鏡治療、腹腔鏡下含む外科手術、化学療法、多職種によるがんリハビリテーション、周術期に対応する呼吸器リハビリテーション、緩和ケアなどを含めた医療機能を提供している。がん検診含め、上部・下部消化管への内視鏡検査は年間7000件前後実施している。これらの機能を生かし、今後も引き続き地域の2次救急医療機関として急性期医療を担って行きたいと考えている。

また、医療資源の投入量が1日あたり600点に達しない程度の急性疾患や慢性期の急性増悪ならびに在宅療養における急性増悪時の受入などにも対応しており、今後、当医療圏において地域包括ケアシステムが充実するにあたり、ますます地域の需要は増えると考えている。

また、健康福祉増進の観点から、健診の需要も高まっており、当院においても体制を整えドックの受入を拡充している。

在宅医療についても、医師確保の観点から十分とはいえないが、現在3ヶ月で20件に達する程度の訪問診療を行なっており、訪問看護も実施している。介護保険事業所の指定も受けており、今後は地域における在宅医療への貢献についても進めて行きたい。

### ② 今後持つべき病床機能

1日あたりの医療資源の投入量が25,000点超の患者を含め、600点以上の患者層における平均在院日数は9日であった。救急やがんの急性期フェーズにおける対応含め、急性期の病床機能は継続して保持すべきと考えている。また、当院におけるサブアキュートおよびポストアキュートの患者層における平均在院日数は30日であり、ほぼ在宅へ復帰している。これらの患者には地域包括ケア病棟がより適していると考えられ延患者数で約半数に当たるため、許可病床数半分60床の転換を計画した。

### ③ その他見直すべき点

今後転換後、地域における需要を見極める

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	120		60
回復期			60
慢性期			
休棟等			
(合計)	120		120
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2018	急性期病床60床を回復期病床（地域包括ケア病棟）に転換	地域で不足する回復期機能を充足

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

・肛門外科を2019年1月に新設予定。

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

急性期における平均在院日数9日・病床稼働率80%

回復期における今後の平均在院日数40日程度・病床稼働率90%

【4. その他】（自由記載）

特に外科医を中心として医師確保が困難を極めており、現在大学医局を含め派遣を依頼している。  
急性期一般入院料の医師最低必要割合の関係上、稼働率が上げられない状況もあり、可及的速やかに医師を確保し目標稼働率を早期に達成したい。



# 桑陽病院

## 医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人米沢記念 桑陽病院
開設主体	医療法人米沢記念
所在地	防府市車塚町3-20
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	108床 一般病床 60床、療養病床 48床 急性期 60床、慢性期 48床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	108床 一般病床 60床、療養病床 48床 急性期 60床、慢性期 48床
診療科目	内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、 泌尿器科、整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科
職員数	124名
・ 医師	9名
・ 看護職員	87名
・ 専門職	19名
・ 事務職員	9名

## 【1. 現状と課題】

### ① 自施設の現状

届出入院基本料 急性期入院基本料 7 (60床)、療養病棟入院基本料 2 (48床)

平均在院日数 20.7日

病床稼働率 82.2%

### ② 自施設の課題

長期的、人口減少に伴う医療需要の減少と医療従事者の確保困難。

## 【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

### ① 地域において今後担うべき役割

急性期病棟は、二次救急輪番病院としての救急医療の提供、及び股関節・脊椎腰椎領域を中心とした整形外科の急性期医療の提供。

慢性期病棟は、透析設備を備えた長期入院が可能な病床の提供。

### ② 今後持つべき病床機能

現在の急性期病棟及び慢性期病棟は維持していく。

しかし、医療需要と医療従事者確保の状況等に応じて、規模の検討も必要になると思われる。

### ③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	60		60
回復期			
慢性期	48		48
休棟等			
(合計)	108		108
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

